

# Asia Indicators

発表日: 2022年12月2日(金)

## 韓国・輸出は一段と下振れする展開が続く(Asia Weekly(11/28~12/2))

～世界経済の減速懸念の高まりを反映した動きは一段と顕在化している～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

### ○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
11/29(火)	(台湾)7-9月実質GDP(前年比・改定値)	+4.0%	+4.1%	+4.1%*
11/30(水)	(韓国)10月鉱工業生産(前年比)	▲1.1%	+0.0%	+0.7%
	(中国)11月製造業PMI	48.0	49.0	49.2
	11月非製造業PMI	46.7	--	48.7
	(タイ)金融政策委員会(政策金利)	1.25%	1.25%	1.00%
	(インド)7-9月実質GDP(前年比)	+6.3%	+6.2%	+13.5%
12/1(木)	(韓国)7-9月実質GDP(前年比・改定値)	+3.1%	+3.1%	+3.1%*
	11月輸出(前年比)	▲14.0%	▲11.0%	▲5.7%
	11月輸入(前年比)	+2.7%	+0.2%	+9.9%
	(中国)11月財新製造業PMI	49.4	48.9	49.2
	(インドネシア)11月消費者物価(前年比)	+5.42%	+5.50%	+5.71%
12/2(金)	(韓国)11月消費者物価(前年比)	+5.0%	+5.1%	+5.7%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。※は速報値

### [韓国]～中国本土の動態ゼロコロナ戦略への拘泥に世界経済の減速も重なり、輸出は一段と下振れが続く～

30日に発表された10月の鉱工業生産は前年同月比▲1.1%となり、前月(同+0.7%)から13ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲3.50%と前月(同▲1.89%)から4ヶ月連続の減少で推移している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連や機械製品関連のほか、自動車をはじめとする輸送用機械関連、素材及び部材関連など幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かっており、最大の輸出相手である中国における動態ゼロコロナ戦略の余波のほか、世界経済の減速懸念の高まりも重なり外需関連産業を中心に減産の動きが広がっていることが影響している。平均設備稼働率も72.4%と前月(75.1%)から▲2.7pt低下するなど、全般的に生産活動が低迷している様子がうかがえる。

1日に発表された7-9月の実質GDP成長率(改定値)は前年同期比+3.1%となり、先月発表された速報値段階(同+3.1%)と同じであった。前期比年率ベースの成長率は+1.30%と9四半期連続のプラス成長で推移するも前期(同+2.99%)から拡大ペースは鈍化しており、中期的な基調も拡大ペースが鈍化するなど頭打ちの動きを強めている。感染一服による経済活動の正常化の動きを反映したペントアップ・ディマンドの発現は家計消費を押し上げる一方、中国経済の減速や世界経済の減速懸念の高ま

りが輸出の重石となる動きが続いている上、家計消費をはじめとする内需の堅調さを反映して輸入は輸出を上回るペースで拡大しており、純輸出の成長率寄与度はマイナス幅が拡大して成長率の下押しに繋がっている。

また、同日に発表された11月の輸出額は前年同月比▲14.0%と2ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲5.7%）からマイナス幅も拡大している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も6ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。中国本土における動態ゼロコロナ戦略の拘泥の影響に加え、欧米など主要国においても景気の頭打ちが意識されるなど世界経済の減速懸念が強まっており、半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連のみならず、幅広く輸出に下押し圧力が掛かっている。一方の輸入額は前年同月比+2.7%となり、前月（同+9.9%）から伸びが鈍化している。前月比も3ヶ月連続で減少している上、中期的な基調も減少傾向に転じるなど輸出同様に頭打ちの動きが強まっている。輸出の低迷を受けて素材及び部材などに対する需要に下押し圧力が掛かっているほか、商品市況の上振れの動きに一服感が出ていることも輸入額を下押ししている。結果、貿易収支は▲70.11億ドルと8ヶ月連続の赤字で推移している上、前月（▲66.98億ドル）から赤字幅が拡大している。

2日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+5.0%となり、前月（同+5.7%）から伸びが一段と鈍化している。前月比も▲0.10%と前月（同+0.26%）から3ヶ月ぶりの下落に転じており、原油をはじめとするエネルギー価格の上昇に一服感が出ていることを反映してエネルギー価格が下落しているほか、食料品価格も2ヶ月連続で下落するなど、生活必需品を中心にインフレ圧力が後退していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+4.3%と前月（同+4.2%）からわずかに伸びが加速しており、インフレ率とともに中銀の定めるインフレ目標（2%）を大きく上回る推移が続いている。前月比は+0.29%と前月（同+0.36%）から上昇ペースは鈍化しているものの、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における通貨ウォン相場の調整に伴う輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格が押し上げられていることに加え、感染一服による経済活動の正常化を反映してサービス物価も上昇が続くなど、全般的にインフレ圧力がくすぶる展開が続いている。

図1 KR 鉱工業生産の推移

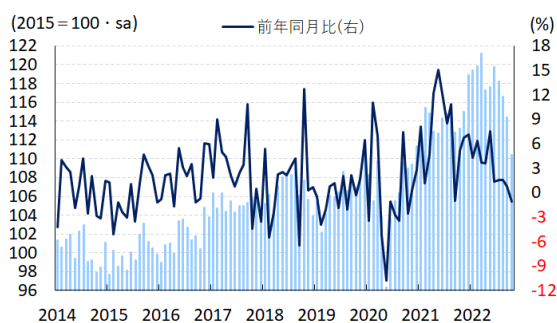


図2 KR 実質 GDP 成長率(前期比年率)の推移

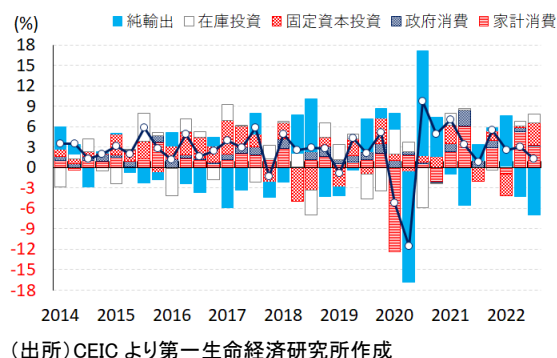


図3 KR 貿易動向の推移

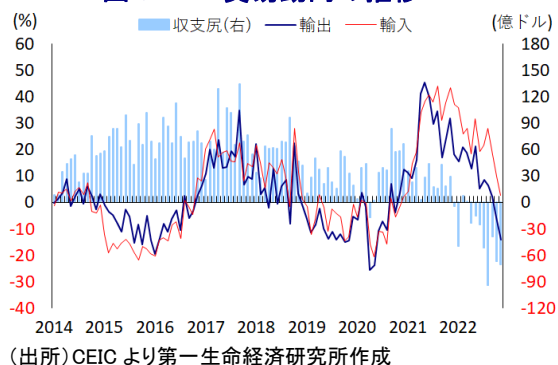
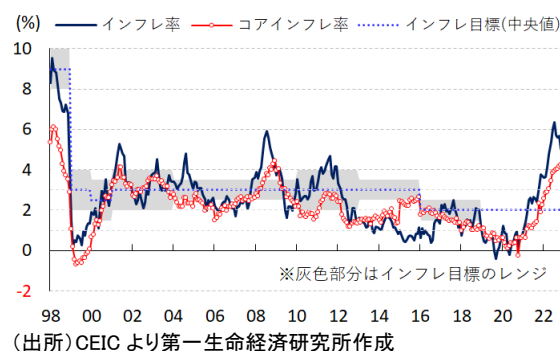


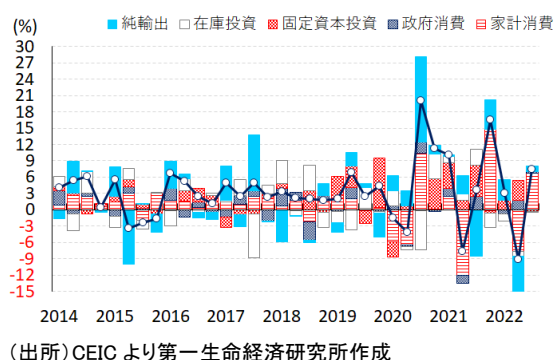
図4 KR インフレ率の推移



### [台湾]～7-9月は2四半期ぶりのプラス成長に転じるも、米中摩擦の激化の余波を受ける形で外需に不透明感～

29日に発表された7-9月の実質GDP成長率(改定値)は前年同期比+4.0%となり、速報値段階(同+4.1%)からわずかに下方修正されたものの、前期(同+3.0%)から伸びが加速している。前期比年率ベースでは+7.51%と前期(同▲9.15%)から2四半期ぶりのプラス成長に転じているものの、米中摩擦の激化などを受けて輸出に下押し圧力が掛かる動きが続いている一方、感染一服による行動制限の緩和を受けて家計消費が押し上げられているほか、政府消費の堅調さも景気を押し上げる展開が続いている。ただし、家計消費や政府消費の堅調さにも拘らず輸入は輸出を上回るペースで減少しており、純輸出の成長率寄与度は前期比年率ベースでプラスに転じるなど、足下の景気を押し上げている。

図5 TW 実質GDP成長率(前期比年率)の推移

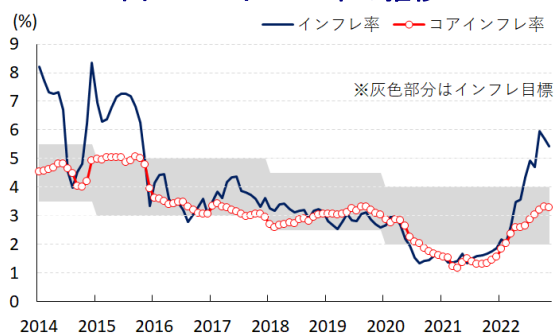


### [インドネシア]～生活必需品の物価上昇一服でインフレ率は鈍化も、全般的にインフレ圧力はくすぶる状況は続く～

1日に発表された11月の消費者物価は前年同月比+5.42%となり、前月(同+5.71%)から伸びが鈍化している。前月比は+0.09%と前月(同▲0.11%)から2ヶ月ぶりの上昇に転じているものの、エネルギー資源価格の上振れの動きに一服感が出ていることを反映してエネルギー価格は下落しているほか、食料品価格も上昇の動きに一服感が出るなど、生活必需品を中心とするインフレの動きは後退している。一方、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.30%となり、前月(同+3.31%)からわずかに伸びが鈍化しており、引き続き中銀の定めるインフレ目標(3±1%)の範囲内で推移している。前月比も+0.15%と前月(同+0.16%)からわずかに上昇ペースが鈍化しているものの、エネルギー価格の上昇に伴う輸送コストの上振れに加え、国際金融市場における通貨ルピア安による輸入物価の押し上げも重なり幅広く財価格が押し上げられているほか、感染一服による経済活動の正

常化の動きを反映してサービス物価も押し上げられるなど、全般的にインフレ圧力がくすぶる展開が続いている。

図6 ID インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

